

平成 20 年度 病害虫発生予察注意報 第 1 号

病害虫名： 疫病

対象作物： ナシ

1. 注意報の内容

- (1) 対象地域 都内全域
- (2) 作物名 ナシ
- (3) 発生量 多

2. 注意報発令の根拠

- (1) 本年の 4 月下旬以降、北多摩地域および南多摩地域の数カ所のナシ園において、ナシ疫病と疑われる症状が発生した。発病枝を調べた結果、ナシ疫病であることを確認した。発生した園場では罹病部の切除、薬剤散布など対策が取られているが、部分的に発病が散見される園場もあり、園場内の病原菌密度は依然として高い状態にあると考えられる。
- (2) 本病の主な症状は、果そう部がしおれたのち黒変枯死し、幼果はミイラ状になって枝上に残る(図 1)。また枝へ進展した場合には枝の表面にしわを生じ、発病部から先の部分が枯死する(図 2)。このため、発生すると収量が大幅に減少する恐れがある。
- (3) 病原菌は土壌中に存在し、風雨による水の跳ね上がりなどによって伝染する。降雨や曇天が続くと発病が助長される。菌糸の生育温度は 4~30℃、生育適温は 25~27.5℃である。本年 4 月の天候は、降水量が 249.5mm(平年値 122.8mm)と多く、平均気温は 14.1℃(平年値 13.3℃)であったが、月の後半に気温の高い日が続き、これらが多発生の要因として考えられる。関東甲信地方の向こう 1 ヶ月の天候見通しでは(5 月 9 日、気象庁発表)、引き続き曇りや雨の日が多い見込みであるため、今後も発生に好適な条件が継続すると予想される。

3. 防除対策

- (1) 発病したらすぐに罹病部を切除し、園外へ持ち出して適切に処分する。
- (2) 草生栽培では発生が少なく、清耕栽培では発生が多くなることが知られている。
- (3) 降雨時の雨水が園内に溜まることなどのないよう、排水対策を十分に行なう。
- (4) 薬剤は表 1 を参照し早期に防除する。雨天が続くと薬剤散布が遅れやすくなるので、雨のやみ間を見て適期防除に努める。
- (5) 今後の発生予察情報及び気象情報に留意する。

表1 本病に対する主な登録薬剤

薬 剤 名	使用基準	施用量または使用倍率
アリエッティ水和剤	収穫 14 日前まで/3 回	800 ~ 1,000 倍
サニパー	収穫 3 日前まで/5 回	600 倍
デランフロアブル	収穫 60 日前まで/4 回	1,000 倍



図1 果そう部の病徴



図2 枝の病徴

.....

防除所ホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>

テレフォンサービス042 (525) 8407

- 今後の予察情報にご注意下さい -

E-mailアドレス S0200303@section.metro.tokyo.jp